

道連ニュース

2014年5月号 No.95

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

2013年度第5回理事会開催される

5月8日、第5回理事会が伊東理事（北海道学校生活協同組合理事）の議事進行で開催されました。確認されました報告事項は①一般活動経過報告②2013年度決算報告③臨時理事会報告④第3回監事会報告⑤事業提携推進委員会報告⑥友好団体他、協賛・後援・お知らせ他⑦北海道他からの通知他⑧第49回学生生活実態調査報告⑨北海道・東北地連報告がなされました。

議決事項では①日本生協連第64回通常総会および北海道労働金庫総会代議員について②道生協連役員辞任届け受理と地連運営委員推薦の件③2014年度道連

会費について④2014年度各種会費・役員派遣について⑤第58回道生協連通常総会の運営および議案について議決されました。

審議事項として①TPP問題②灯油問題③北海道電力電気料金再値上げ対応の件④NPT（核不拡散条約）再検討会議に向けた取り組みについて⑤介護保険制度改定にむけた取り組みについて、論議が深められそれぞれのテーマの活動方向について確認されました。以上報告いたします。

上川地区学校生協 「第65期通常総代会」について

4月23日に今年度の通常総代会を開催しました。今年度の総代会は総代100名中、出席総代と書面による出席総代の合計96名で行いました。昨年度の供給高は、前年度実績に対し102.2%とわずかながら好転いた

しました。毎月「生協連定番商品」など独自チラシの企画など利用増を図りました。

今後とも組合員のニーズを的確に把握し、生協運動を発展させる取り組み強化が必要と確認されました。

◎ 道連第58回通常総会及び交流懇親会のご案内 ◎

当連合会の第58回通常総会及び交流懇親会を下記の要領にて開催いたしますのでご案内申し上げます。

記

- 開催日時 2014年6月20日(金)
①第58回通常総会 午後3時半～4時半 4階「ラベンダー」
②交流懇親会 午後4時半～6時 4階「ライラック」
- 開催場所 ホテル ポールスター札幌
札幌市中央区北4条西6丁目 (TEL 011-241-9111)
- 議 題
第1号議案 2013年度活動報告承認の件について
第2号議案 2013年度事業報告書及び決算関係書類の承認・監査報告
第3号議案 2014年度活動計画及び予算決定の件について
第4号議案 役員報酬決定の件について
第5号議案 議案決議効力発生の件について

ありがとうございました！

～北海道ユニセフ協会20周年記念式典が無事終了しました！

日頃から絶大なご支援をいただき感謝申し上げます。おかげさまで4月20日に当会の20周年記念講演会・式典を無事終了させることが出来ました。

北海道における組織的なユニセフ活動は、1979年の国連による国際児童年の設定に合わせてICAが全世界の協同組合にユニセフ支援を呼びかけ、コープさっぽろが組合員活動として呼応したことからはじめます。やがてその活動が認められ、1984年コープさっぽろ内に「ユニセフ募金北海道事務局」の設置が許可されました。そして1994年北海



道の生協の全面的支援の下「日本ユニセフ協会北海道支部」が設立されます。現在の「北海道ユニセフ協会」は2011年日本ユニセフ協会が公益財団法人になったため、名称を変更したものです。

記念式典には麻田会長をはじめ内外100名の方々にご参加いただき、記念講演会「地球のステージ」は200名のご参加で大好評でした。この講演は単なる講演ではなく精神科医の桑山紀彦氏が自らの途上国子ども支援の経験を音楽と映像でライブ公演するユニークなものです。是非生協連でも企画されることをお勧めします。なお当会の20周年記念誌（A5版170P）もあります。ご入用の方は道生協連を通じてお申し込みください。

これからもユニセフ支援をよろしくお願いします。

アニマルウェルフェア(家畜福祉)学習会

5月10日約90名が参加して「北海道・農業と動物福祉の研究会」設立記念フォーラム～アニマルウェルフェア畜産の可能性を探る～が開催されました。発起人代表の酪農学園大学の荒木和秋教授からの挨拶のあと、帯広畜産大学畜産学部の瀬尾哲也講師が「アニマルウェルフェアが目指す方向」というテーマで話をしました。自然な動作が妨げられている牛の飼育状況の例を写真で示し、例えば、哺乳をバケツで行なうと吸う行為が十分出来ずに異常行動を取る牛が多いから、哺乳瓶を使う方が良いことなど、動物行動学的な問題点を説明しました。家畜の生活レベルを高め、5つの自由（①空腹及び渇きからの自由②不快からの自由③苦痛、損傷、疾病からの自由④正常行動発現の自由⑤恐怖、苦悩からの自由）を尊重する快適性に配慮した飼養をしていくべきことを訴えました。また生産者としての理想の飼い方と、消費者としてどんな飼

い方の畜産物を望むか、をつないでいきたいと研究会設立の趣旨を話されました。実際「ストレスの無い環境で牛を飼う」クリーマー農夢の佐竹秀樹代表からは、「アニマル・マシーン」という本を読んで大規模より持続的であることに価値を感じるようになり、自給自足を目指して5頭の牛を大切に飼っている話を聞きました。北海道・農業と動物福祉の研究会では6月7日クリーマー農夢見学会や8月1日18:30～かでの750研修室での学習会等を予定しています。



生活クラブ

「子どもたちを守ろう！ チェルノブイリ～福島～北海道」が開催されました

2014年4月26日、快晴の西6丁目広場に約400名が集まりました。

私たちは、この日を“4・26”や“チェルノブイリデー”と呼び、「チェルノブイリを繰り返さないで！」「まだ間に合う、原発やめよう」を訴えるために市民集会と講演会を重ねてきました。

28回目となった今回のテーマは「子どもたちを守ろう！チェルノブイリ～福島～北海道」。チェルノブイリ原発事故を教訓にできずに、原発事故を引き起こしたことへの悔恨の念を抱きながら人々は集まります。集会では、北海道の反原発運動を牽引している岩内原発問題研究会代表齊藤武一氏、幌延深地層処分計画に反対する工房レティエの久世あもさん、福島から札幌に避難した都築啓子さんからメッセージをいただ

きました。また、講演会は、ウクライナのチェルノブイリ博物館の副館長アンナ・コロレフスカ氏を招聘し、500名の市民がチェルノブイリと福島を重ねました。福島で起こったことを繰り返してはいけません。誰もがそう思っているはずです。しかし、「原発ゼロ」を実現するのは少し時間がかかりそうです。その時間を短くするためにも、私たちの暮らしの足元にある泊原発を廃炉にするために、何度でも集まり声を出し続けま

